# はにわの考古学

平成6年度後期企画展

• 1994 •

熊本県立装飾古墳館

# はにわの考古学

1994年11月3日(木)→12月11日(日)

熊本県立装飾古墳館

＜表紙写真＞
岡山県落合町中山遺跡出土 特殊器台
（埴輪のルーツ）

# ごあいさつ

熊本県立装飾古墳館では、平成６年度後期企画展として「はにわの考古学」を開催します。

３世紀末から７世紀にかけて、日本各地では前方後円墳を始めとして巨大な墳墓群が営まれています。弥生時代の墳墓とくらべると、墳丘の大きさ、副葬品の種類、質、量など大きく変容していきます。また、古墳の外に供えるものとしての「はにわ」が様々な種類をもって作られていきました。

今回の企画展では、現代に残された考古学上の遺物としての「はにわ」に焦点を当ててみました。

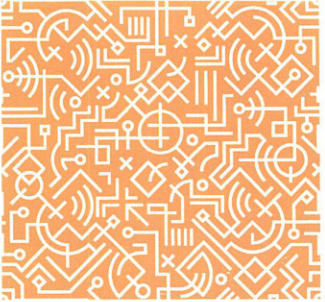
残された文字からでは、その時代の様相を十分に知りえない今、「はにわ」は欠くことのできない資料だと考えられています。

今回、各関係機関の協力をいただき、本企画展において各資料を展示することができました。様々な「はにわ」をとおして古墳に供えられた意味を考えていただくとともに、「はにわ」の織りなす素朴な味わいを楽しんでいただければと思います。

企画展にあたりまして、出品協力いただいた関係各機関並びに関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成６年11月３日

熊本県立装飾古墳館
館　長　中島　武治



# 目　次

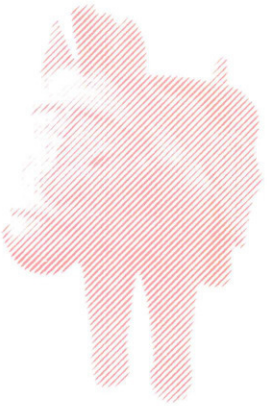

ごあいさつ ―― 1
目次・凡例 ―― 2
はじめに ―― 3
**第１章　はにわのルーツ** ―― 4
　特殊器台と円筒埴輪 ―― 4
**第２章　はにわの世界** ―― 6
　Ⅰ器材埴輪の出現 ―― 6
　Ⅱ人物埴輪の隆盛と祭り ―― 7
　Ⅲ供えられた動物たち ―― 13
**第３章　くまもとのはにわ** ―― 14
　くまもとのはにわ ―― 14
**第４章　のこされた石人たち** ―― 15
　石人・石馬の語るもの ―― 15
附　図　熊本県埴輪出土分布図 ―― 16
〃　熊本県石製品出土分布図 ―― 17
附　表　熊本県埴輪出土地名表 ―― 18
〃　熊本県石製品出土地名表 ―― 20
展示協力者・機関 ―― 21
参考文献 ―― 22
出品目録 ―― 23
あとがき ―― 24


# 凡　例

1．本書は熊本県立装飾古墳館平成６年度後期企画展「はにわの考古学」の展示図録として作成しました。
2．本図録と展示の構成は一部異なることがあります。また、掲載写真は展示品の全てではなく、一部参考資料として掲載しているものがあります。なお、会期中に一部資料の展示替えを行うことがあります。
3．本図録は本館学芸課の指導助手のもと坂口圭太郎が執筆と編集を担当しました。
4．展示の企画、展示資料、掲載写真について、多くの機関ならびに個人の御助力、御指導をいただきました。巻末に記し感謝の意を表します。

# はじめに

「はにわ」と聞いて、あなたはまず何を思い浮かべますか。土を捏ねて焼き上げた人形を想像した人は、この展示を見て楽しんでいただけるのではないでしょうか。ここには、永い眠りから醒めた様々な「はにわ」たちが、静かにたたずんでいます。きっとこの部屋を後にした時、これまでとは違った「はにわ」が見えてくるはずです。それではしばし、現世（うつしよ）を離れてお楽しみ下さい。



# 第1章
# はにわのルーツ

「はにわ」とは漢字で埴輪と書きます。辞書をひも解いてみると「埴」はしょくと読み、粘土のことです。「輪」はりんと読み丸い筒を意味します。この様に、粘土で作られた円筒が「埴輪」なのです。この埴輪が初めて歴史に登場してくるのは、720(養老四)年に編纂された『日本書紀』の中です。垂仁天皇三二年(西暦4年)皇后であった日葉酢媛命が亡くなられた時、野見宿禰が殉死する人々の代わりに、粘土で人や馬その他色々な物を作って、陵墓に立てるよう上奏しています。この記述から、戦前は殉死代用説が一般に信じられていました。しかし、この説には幾つかの矛盾点があります。

ひとつには、殉死の風習が古墳の発掘から実証できないこと。ふたつめは、初期の古墳において人や馬等の埴輪が発見されていないことです。では一体、「はにわのルーツ」はどこにあるのでしょうか。その謎を解く鍵が実は岡山県にあるのです。

展示資料①をご覧ください。

## 特殊器台と円筒埴輪

ここに、展示した資料は岡山県落合町中山遺跡出土の「特殊器台」と「特殊壺」です。特殊器台とは、弥生時代後期の吉備地方(現在の岡山県にあたる)で作られた葬礼用の壺を乗せる器台の事です。この地方では墳墓の墓前祭として器台に乗せた壺を供献することが盛んに行われていました。それが次第に大型化、儀器化されて、さらに器面に文様を施すようになっていきました。この特殊器台が畿内に伝わり、前方後円墳の供献用として採用されたと考えられます。この事は、初期大和王権の成立に吉備地方の首長が何らかの形で深く係わっていた事実を物語っています。

この特殊器台はその後どのように円筒埴輪へと変化していったのでしょうか。展示資料③をご覧ください。これは熊本県山鹿市にある装飾古墳として有名なチブサン古墳出土の円筒埴輪です。よく似た形をしていますが、こちらには文様が施されていません。また、古墳の周りに垣濠を立てる様にお供えするため、埋めやすいように、下部に段が付いていません。一方、特殊器台の方は、「置く」ことを考えているために、倒れにくく、安定するように下部に段が付いています。

この様な違いがあるにしろ、いずれも、「お供え物」としての意識があったことは間違いないと考えられます。

展示資料④をご覧ください。これは朝顔形埴輪と呼ばれるものです。この形は、展示資料①の上に展示資料②を乗せた形が、簡略化されて作られたものと考えられます。

時期は違いますが、両方の遺物に残された同じ想いを感じ取っていただけたのではないでしょうか。

### ●中山遺跡について

**(所在地　岡山県真庭郡落合町西河内字中山)**

中国山地の支脈、標高163㍍あまりの緩やかな斜面に営まれた弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけての土壙墓群266基、箱式石棺墓3基、配石墓6基、計275基を数える一大墓域です。他に弥生時代中期後半の住居跡や、古墳群等が確認されています。

また、谷を一つ隔てた所で、土壙墓群と同時期の集落が検出されており、当時の集落と墓制を考える上で重要な遺跡です。

今回展示している特殊器台及び、特殊壺は土壙墓の上面より見つかったもので、遺跡全体からみて土壙墓群全体の被葬者に対して供献されたものではないかと報告されています。

中山遺跡全景

### ●チブサン古墳について

**(所在地　山鹿市城字西福寺)**

山鹿市の西北、平小城台地の東端、北から南へ緩やかに傾斜するところにあります。装飾古墳として知られており、6世紀前半に造られたと考えられています。墳形は前方後円墳で、主軸の長さ44㍍、後円部径23㍍、高さ7㍍を計ります。石室の構造は横穴式石室で、造り付けの家形石棺が納められています。この古墳からは、石人や埴輪が見つかっており、貴石を持っています。この石人は、現在東京国立博物館に収蔵されています。

展示資料① 中山遺跡出土特殊器台

展示資料② 中山遺跡出土特殊壺

展示資料③ チブサン古墳出土円筒埴輪

展示資料④ チブサン古墳出土朝顔形埴輪

# 第2章
# はにわの世界

## Ⅰ 器材埴輪の出現

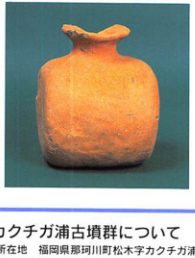
器材埴輪は円筒埴輪からやや遅れて作られ始めます。この頃はまだ人物埴輪は出現していません。中でも、家形埴輪が数多く作られ始めます。この埴輪は主に墳丘の上部に安置された形で発見されることが多いため、一部の学者の間では、首長の霊が宿るものとして作られたと考えられています。事例の中の幾つかでは、埋葬主体を取り囲むかのように、他の器材埴輪（盾、靫、甲冑）等と並べられています。しかし、中には墳丘の裾部の張り出しや古墳から若干離れた別区において検出される場合もあって、結論は出ていません。

他には、さきにあげた盾、靫、甲冑、鞆、鐙、蓋、大刀、椅子等があります。

### ■カクチガ浦10号墳出土家形埴輪

展示資料⑤をご覧ください。これは福岡県那珂川町カクチガ浦10号墳から出土した家形埴輪です。屋根の構造は切妻式となっています。当時の一般の住居は竪穴で屋根を葺いた竪穴式住居なので、この埴輪は当時の首長が住んでいた居館を模したものと考えられます。垂木を乗せ、壁を四方に廻し、窓状のものが確認できます。この埴輪は墳丘上で見つかっています。また同古墳からは馬形埴輪も見つかっています。

展示資料⑤



展示資料⑥

### ■貝徳寺古墳出土横瓶形埴輪

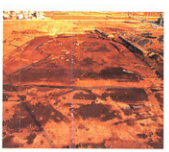
展示資料⑥をご覧ください。これは福岡県那珂川町貝徳寺古墳から出土した横瓶形埴輪です。須恵器の横瓶を模したもので、武具や儀式に使う道具の多いこの時期の器材埴輪としては珍しいものです。この埴輪の他に、冠帽状のものを被り、大刀を顔面に施した人物埴輪と鰹木を乗せた切妻式の家形埴輪が周溝から見つかっています。

### ●カクチガ浦古墳群について

（所在地　福岡県那珂川町松木字カクチガ浦）

那珂川町松原団地の南西の丘陵上に造られた古墳群で13基が確認されています。石室構造は横穴式石室で、5世紀から6世紀にわたって造られたと考えられています。その中の10号墳は直径25mと群最大の円墳です。墳丘は2段になっていて、上段には葺石が見られます。また、この古墳の墳丘上からは、馬形埴輪と家形埴輪が検出され、群中でも、かなり有力な首長の墓であると考えられています。

◀カクチガ浦10号墳全景



### ●貝徳寺古墳について

（所在地　福岡県那珂川町今光字宗石）

貝徳寺古墳全景▶

那珂川町現安徳公園にあった前方後円墳です。石室は壊されていましたが、周溝が残っており、全長54mと推定されています。出土遺物から5世紀後半に造られたと考えられています。周溝の中からは円筒埴輪をはじめ、家形埴輪、蓋、横瓶形埴輪等、様々な埴輪が見つかりました。その他に多量の人頭大の石が見つかり、もとは墳丘の周りを葺石で覆っていたものと考えられます。造られた当時、この古墳は円筒埴輪を周囲に巡らし、頂上にはこれらの形象埴輪群が置かれていたと思われます。

平野部に造られたこの古墳は、その大きさや出土した遺物から、那珂川流域を支配していた首長の墓ではないかと考えられます。

# Ⅱ 人物埴輪の隆盛と祭り

5世紀後半にはいり、埴輪はさらにその種類を増やしていきます。ここにきて、初めて登場するのが、「はにわ」と聞いて、みなさんがまず頭に思い浮かべる人物埴輪や猪、鹿あるいは馬等の動物埴輪などの一群なのです。

古墳時代も中頃に入ると前方後円墳を中心に、全国で数多くの古墳が造られはじめます。それに伴い、古墳には様々なものが供えられはじめます。近年発掘調査が進み、「土の埴輪」のみならず「木の埴輪」や「石の埴輪」など各地で発見が相次いでおり、当時の古墳の「祭り」の様子がかなり明らかにされてきています。

ここでは、「祭り」の重要な主役であっただろう人物埴輪群像についてその意味を考えてみましょう。

人物埴輪はその多くが単独で出土するのではなく、群像として出土する場合が多いとされています。また、それ以前の器材埴輪と違い、必ずしも、武具を身にまとった埴輪だけで無く、巫女や貴人、楽人、農夫など様々な人々が登場してきます。その解釈を巡って幾つかの学説が唱えられています。その中の幾つかについてご紹介してみます。

まずは、「首長霊継承儀礼」の様子を表したものとする説です。分かりやすく述べると新しい首長が亡くなった首長から技能集団をはじめとした有形の財産のみならず、無形の遺産を引き継ぐ様子を人物埴輪群で表現しているということです。古墳に集う人々の衣装や持ち物から想像された解釈として極めて説得力のある説です。

次に、「もがり」説があげられます。「もがり」とは亡くなった人を埋葬する前に、仮の小屋を作って、そこに安置し、生前仕えていたように、死後も仕えることにより、死者の魂をこの世に呼び戻そうとする儀式のことですが、この様子を人物埴輪群で表したものではないかとする説です。

他にも「葬列再現説」や「顕彰碑説」、あるいは「生前再現説」等ありますが、いずれも決定的な根拠は見いだせないままです。

ご覧の皆様はここにたたずむ「はにわ」たちを見てどうお考えでしょうか。それでは、個々の埴輪を一緒に観て行きましょう。

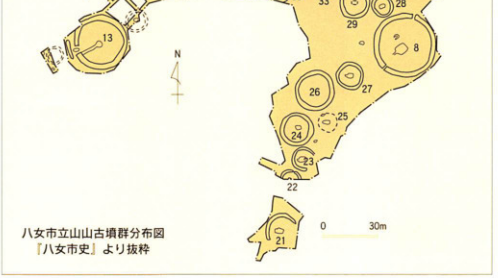
## ●立山山古墳群について

（所在地　福岡県八女市本字立山）

立山集落の北背後の丘陵上にある総数44基に及ぶ円墳群です。他には周溝を持たない箱式石棺墓、石蓋土壙墓、木棺墓等あわせて11基確認されています。見つかった遺物からこの古墳群は5世紀前半に造られはじめ、6世紀後半まで継続して造られていたと考えられています。中でも8号墳及び13号墳は他の古墳と比べて、特に大きく、埴輪や耳飾りなどの副葬品の多さからも、群中でもかなり有力な首長の墓だと考えられています。

8号墳は直径34mの大きさで石室構造は、単室の横穴式石室です。調査より前に盗掘されており、その時に副葬品の多くは失われたと考えられますが、この古墳に葬られた人物の地位を推測させる垂飾付き耳飾りや、挂甲の小札などが見つかっています。ここからはまた、馬、人物、猪などの形象埴輪も数多く出土しています。この古墳は6世紀前半に造られたと考えられています。

13号墳は直径29mの大きさで石室構造は、単室の横穴式石室です。古墳に通じる道が西南の方向で見つかっています。またこの道の横の墳丘中から、墓前祭祀に用いられたと考えられる土器が60点余り出土しており、この土器などからこの古墳は6世紀中頃に造られたと考えられています。また、周溝内から多数の埴輪が見つかっています。



八女市立山山古墳群分布図
『八女市史』より抜粋

## ◆ 貴人たちが語りかけるもの ◆

古墳に並べられた多くの人物埴輪で中心になるのが、ここに紹介する貴人像です。古墳時代の人々にとって、階級を示すものに美豆良（みずら）があります。美豆良の中でも下げ美豆良と呼ばれる髪形は貴人にのみ許されていたものとされています。

展示資料⑦をご覧ください。これは、「馬に乗る貴人」と呼ばれているものです。鞍にまたがり頭には冠を被っており、美豆良は貴人を象徴する下げ美豆良に編んでいます。身にまとっているものはズボンと思われます。腰には環頭大刀を差し、鐙をしっかりと踏みしめる様は優雅なものです。展示資料⑧をご覧ください。これは、「首飾りをつけ、みずらにゆった人物」です。資料⑦と同じく下げ美豆良に髪を編み、頭には玉状の首飾りを掛けています。身にまとう装束は、鉄製の板を革紐で繋ぎ合わせた挂甲と呼ばれる騎乗のための鎧を表現しているようです。

展示資料⑦
立山山13号墳出土人物埴輪

展示資料⑧
立山山8号墳出土人物埴輪

展示資料⑨
立山山13号墳出土
人物埴輪

参考資料
立山山８号墳出土
人物埴輪

展示資料10
立山山８号墳出土
人物埴輪

## ◆ 貴人たちの装い ◆

古墳時代の衣装については、残念ながら、多くは解明されていません。湿気が多い日本において、木綿や絹、皮製品等は遺存しにくいのです。その点でも人物埴輪は大変貴重な資料と言えるのです。現在、私たちがよく目にする時代劇の登場人物を思い浮かべてください。日本では独特の気候の為、特に蒸し暑い時期は風通しの良い、前開じの着物が盛んに着られています。しかし、埴輪を観察してみるとむしろ現代の洋装に良く似ていると思いませんか。それでは、一緒に展示資料を見ていきましょう。

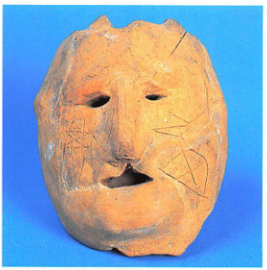
展示資料⑨をご覧ください。これは「袴をつけた脚」です。腰をよく見てください。上着を閉じる腰紐が残っています。表面には細かな刺突が施してあり、革紐かも知れません。靴をはいているのですが、三角の文様があります。これはあるいは、革紐を編んで作った編み靴を表したものかもしれません。

展示資料⑩をご覧ください。これは「襷をした人物」です。前には２本の紐が表現されています。背中は肩甲骨の下あたりで交差しています。残りが悪いのですが、他の資料から見て、巫女と考えられます。酒壺を注ぐために邪魔な袖をまとめているのでしょう。

## ◆ 入墨の風習 ◆

入墨の歴史は古いものです。『魏志』倭人伝の中に「男子大小となく、皆鯨面文身す。（中略）今倭の水人、好んで沈没して魚蛤を捕らえ、文身しまた以って大魚・水禽をきらう。後、やや以って飾りとなす。諸国の文身各々異なり、あるいは左にし、あるいは右にしあるいは大に、あるいは小に、尊卑差あり」と書かれており、倭人が身体に入墨を施していたこと、それが大魚や水鳥の害を防ぐまじないであったことが考えられます。この事例をそのまま古墳時代に当てはめることは出来ませんが、風習として入墨が残っていたことが多くの人物埴輪から分かります。

展示資料11をご覧ください。これは「いれずみをした顔」です。顔のみが残っていますが、頬に施された入墨が線刻で表現されています。全体像が不明なので、どの様な人物であったのかは分かりません。



展示資料11　立山山13号墳出土人物埴輪

展示資料12　岩戸山古墳出土人物埴輪

展示資料13
立山山８号墳出土垂飾付耳飾

## ◆ はにわにあらわされた装身具 ◆

古墳時代の装身具は主に首長などの権威を飾るものとしての身に付けられていたようです。それらは縄文時代から続く呪術具としての勾玉や首飾り、朝鮮半島から入ってきた冠帽や垂飾付耳飾りなどがあり、埴輪にもそれらがリアルに表現されています。

展示資料12をご覧ください。これは「耳環をつけた人物」です。左側頭部のみが残っています。性別は不明ですが、古墳から多く見つかる金環の着装例として貴重なものです。

展示資料13をご覧ください。この「垂飾付耳飾」は、朝鮮半島からもたらされたと考えられています。

短い鎖と細かな装飾は工芸品としても一級品の価値があります。類例はいくつかありますが、熊本県菊水町江田船山古墳及び、滋賀県鴨稲荷山古墳出土のものなどがあげられます。

## ◆ 巫女のはにわ ◆

巫女は武人の埴輪とならんで人物埴輪の中では、中心的存在のものです。様々な意匠をもって作られた人物埴輪のなかで共通して見られるものに、壺を捧げ持つ像があります。

彼女はいったい誰に酒壺を傾けようとしているのでしょうか。亡くなった首長に捧げるのか、新しい首長に捧げるのか、思い描いてみてください。

展示資料14をご覧ください。頭を島田髷に結い、筒袖の服の上に被衣を羽織り、裳をはいて酒壺を捧げ持った典型的な巫女像です。袖部は織りを表現していると思われます。似た資料は各地で発見されていますが、代表的なものとして、兵庫県丹波町垣谷5号墳の巫女像があげられます。

展示資料15をご覧ください。展示資料14同様頭を島田髷に結い、褌掛けをして座っています。資料10同様酒壺を注ぐために邪魔な袖をまとめているのかもしれません。

展示資料14　立山山13号墳出土人物埴輪

展示資料15　岡寺古墳出土人物埴輪

## ◆ 墓を護る武人たち ◆

武人埴輪もまた巫女同様、人物埴輪群の中心をになうものです。首長が葬られた古墳を守護するかのように、完全武装で表現されています。

展示資料16はこれまで発掘された資料から３分の２ほど復原したものです。身にまとう鎧は挂甲で、織りが表現されている袴が認められます。足首から先が残っていないため、どのようなものを履いていたかよく分かりませんが、ふくらはぎあたりの形状からブーツのようなものをはいていた可能性があります。

展示資料16
岡寺古墳出土人物埴輪

### ●岡寺古墳について

（所在地　佐賀県鳥栖市田代本町字太田）

杓子ヶ峰から延びる緩やかな丘陵上にあります。開墾等により、墳丘全体が著しく変形していますが、トレンチ調査から前方後円墳であると考えられています。北側の畑からは多くの埴輪が見つかっています。当時のこの地方の有力な首長の古墳でありながら石製品を持たない点が注目されます。

◀岡寺古墳全景

## ◆ 納められた武器 ◆

古墳の副葬品の中には宝器や、儀器の他、数多くの武器・武具が納められています。これらは、悪霊から葬られた死者を護るものと考えられています。

古墳時代も中期になると副葬品にも変化が現れてきます。初期の呪術的様相が薄れ、武具や馬具などの実用品が主流を占めるようになります。この事は、単なる風習の変化ではなく、むしろ、豊富な鉄製品の副葬から、鉄の供給量の増加や富の集中といった事実を指し示すものと考えられます。今回の展示で、その幾つかのものを紹介したいと思います。

展示資料17をご覧ください。この短甲は、県内出土のものとしては、遺存が良好なものです。短甲は胴部を守るために着用するもので、時代によって幾つかの型式があります。本資料は横矧板鉄鋲留式短甲です。蝶番も良好に残っています。

展示資料18をご覧ください。これは古墳時代に多く用いられた直刀で大刀とも呼ばれています。中近世の反りのある日本刀と異なり、斬る他に突く機能も併せ持った刀です。刀身に僅かに残った木質から木の鞘に納められて副葬されたことが分かります。握り及び柄の状態は残念ながら分かっていません。

展示資料19をご覧ください。ここに展示されている資料は、鉄製の武器類です。鉄鏃と鉄矛が展示されています。これらはみな実用品であり、当時の優れた工芸品です。

展示資料17　繁根木古墳出土短甲

展示資料18　塚坊主古墳出土大刀

展示資料19　国越古墳出土品

# Ⅲ 供えられた動物たち

動物埴輪はいつから作られるのでしょうか。初期に作られ始めたのはおそらく鶏形埴輪と考えられます。鶏といえばまず、思い浮かべるのは朝を告げるあの独特な鳴き声でしょう。古墳時代の人々にとって夜の闇は、悪霊たちが歩き回る忌まわしい時間であったに違いありません。当時の人々は何よりも夜明けが待ち遠しかった事でしょう。

彼らは同じように古墳に葬られた死者にも悪霊たちが決して寄りつくことがないよう祈っていたはずです。それらの事象から、初期の古墳には鶏が多く供えられたのではないかと考えられます。

他にも、猪、鹿、馬、猿、水鳥、魚、犬など様々な動物が供えられています。

この中でも馬形埴輪は武人埴輪とともに数多く作られます。猪は狩りの対象として、狩りを手伝ったであろう犬とともに、埴輪として作られています。その他の動物埴輪も様々な意匠を凝らして作られていきますが、供えられた意味を知るにはまだまだ、資料が少ないようです。

展示資料20をご覧ください。鞍を着けた馬形埴輪です。鐙と革紐が丁寧に表されています。

展示資料21をご覧ください。鶏形埴輪です。鶏冠が表現されており、雄鳥だと分かります。朝を告げる表情が良く表されています。

展示資料22をご覧ください。猿形埴輪と考えられています。細かな造作はありませんがおおらかな表情が良く表されています。

展示資料20-A

展示資料20-B

岡寺古墳出土馬形埴輪

展示資料21
岩戸山古墳出土鶏形埴輪

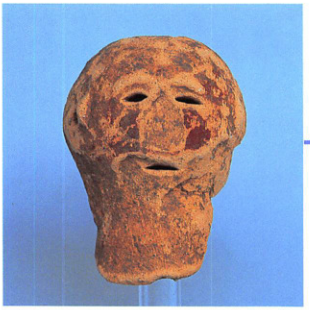
展示資料22
立山山８号墳出土猿形埴輪

参考資料(猪)
立山山８号墳出土猪形埴輪

# 第3章
# くまもとのはにわ

## くまもとのはにわ

熊本では現在、59ヶ所で埴輪が検出されています。その内、形象埴輪が確認された箇所は僅か20余りです。発掘事例が少ない事を差し引いても、多くの古墳では形象埴輪があまり供えられなかった事になります。それに代わるものがあったのかどうかについては、これから考えていかなければならないでしょう。



展示資料23

### ■虚空蔵塚古墳のはにわ

展示資料23をご覧ください。烏田髷を結った巫女と考えられる人物埴輪です。顔面に赤色顔料が認められます。耳部と髪部は外れて残っていません。また、胴部も見つかっていません。

### ●虚空蔵塚古墳について

（所在地　菊水町江田字清原）

菊水インターの南、清原台地上の清原古墳群中にあります。昭和50年度と昭和60年度の調査で全長52mの帆立貝式の前方後円墳であることが分かりました。周溝からは、円筒埴輪や人物埴輪頭部が見つかっています。墳頂に虚空蔵菩薩がまつられていたことから、この名前がつけられました。

展示資料24

### ■八代大塚古墳のはにわ

展示資料24をご覧ください。烏田髷を結った巫女と考えられる人物埴輪です。顔面に赤色顔料が認められます。耳部は外れて残っていません。また、胴部も見つかっていません。

### ●八代大塚古墳について

（所在地　八代市上片町字下野森）

龍峯山塊の西麓に近い、沖積平野に造られた前方後円墳です。全長55.7m、後円部の直径28m、高さ8.9mを計ります。周溝中より人物埴輪や家形埴輪片、円筒埴輪などが見つかっています。これらの遺物から6世紀初頭に造られたと考えられます。

# 第4章
# のこされた石人たち

## 石人・石馬の語るもの

『筑後風土記』逸文に九州最大の勢力を誇った磐井の墓の記述があります。これら石人・石馬に代表される石製品は九州北部を中心に5世紀から6世紀にかけて盛んに作られます。この石製品の分布と作られた時期が、磐井の影響下にあった地域と影響力をもった時期と合致するので近年では、磐井を象徴する遺品として注目されています。しかし、発生の起源が未だ解明されておらず、謎の多いものです。

その用途については、他の初期の古墳における器材埴輪と同様墳丘上に立てて置かれた事例から、威儀具、あるいは儀礼具として用いられたと考えられています。

### ■臼塚石人

『鹿本郡誌』にその存在が確認されています。現在この資料は熊本県立美術館本館に所蔵展示されており、本館では地下の装飾古墳室にレプリカが展示されています。

凝灰岩製の武人像で短甲を身に着け、背中には矢を納める靫が表現されています。

表面の三角文は短甲の構造を丁寧に表現したものです。また、表面には僅かではありますが、赤色顔料が残っており、作られた当時は全面が赤色で塗られていたと考えられます。頭部を失っています。

臼塚石人レプリカ（本館所蔵）

### ●臼塚古墳について

（所在地　山鹿市石字臼塚）

山鹿市役所の北西1800mの微高地にあります。かなりけずられており、正確な墳形は不明です。現存高4.5m、現存径約22mを計ります。6世紀前半に造られたと考えられています。出土遺物は埴輪、須恵器、鉄鏃、各種玉類があります。

### ■姫ノ城古墳出土さしば

展示資料25をご覧ください。凝灰岩製のさしばで、1.4mの大きさを計ります。最近発掘された事例から、当時は全面に赤色顔料が塗られていたようです。

展示資料25

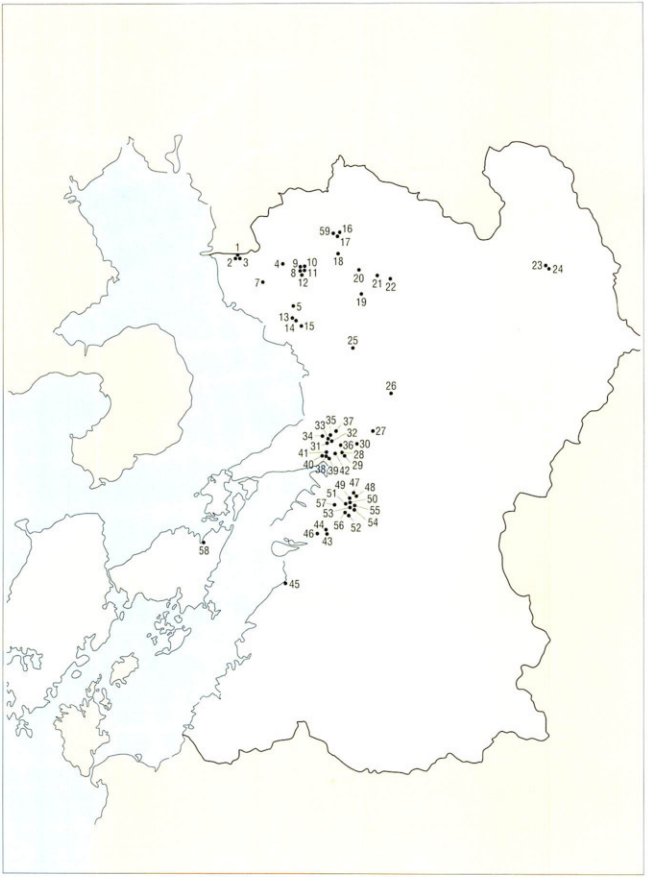
### ●野津古墳群について

（所在地　竜北町野津一帯）

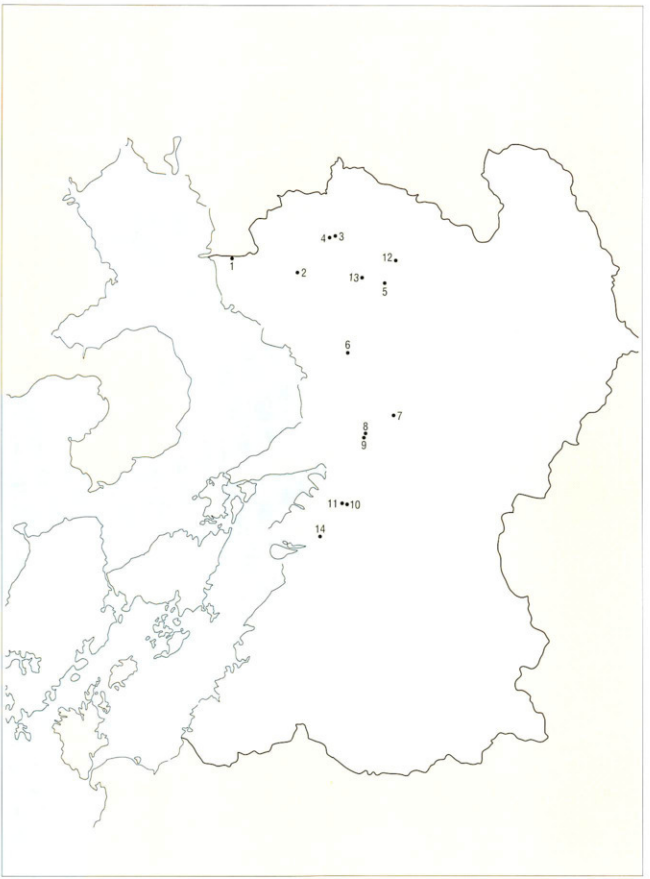
野津丘陵一帯に広がる古墳群で火ノ君につらなる古墳ではないかと考えられています。調査が始まったばかりですが、墳形と出土した埴輪から5世紀代に造られはじめたのではないかと考えられています。

展示してある資料が見つかった姫ノ城古墳は前方後円墳です。この古墳から円筒埴輪をはじめとして、数多くの石製品が見つかっています。

# 熊本県埴輪出土分布図


1
2
3
4
5
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59

# 熊本県石製品出土分布図



# 熊本県埴輪出土地名表

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 時期 | 遺構概要 | 円筒 | 朝顔 | 壺形 | 形象埴輪 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 三ノ宮古墳 | 荒尾市下井出字持田丸 | 6C前 | 前方後円墳：45m | ○ | ○ | | 鈴物？ | 武装石人 |
| 2 | 別当塚古墳群 | 荒尾市下井出字亀原 | 5C中 | 円墳：東墳44m 西墳30m | ○ | | | 家（東古墳出土） | 東墳は竪穴式横口石室（他に1基古墳有り） |
| 3 | 塚山古墳 | 荒尾市下井出字上ノ山 | | * | | | | 不明 | 未調査のため詳細不明 |
| 4 | 稲荷山古墳 | 玉名市繁根木馬場 | 5C中 | 前方後円墳 | | ○ | | | |
| 5 | 印鑰神社古墳 | 玉名市宮原字上井内 | | 不明 | ○ | | | | |
| 6 | 伝佐山古墳 | 玉名市繁根木字北 | 5C末 | 円墳：35m | ○ | | | 猪？もしくは家？ | 帝所在地不明 |
| 7 | 院塚古墳 | 玉名郡岱明町関田字京塚 | | 前方後円墳：78m | | | ○ | | |
| 8 | 塚坊主古墳 | 玉名郡菊水町瀬川字清水原 | 6C初 | 前方後円墳：47m | ○ | ○ | | 鳥？・人物の腕部？ | |
| 9 | 虚空蔵塚古墳 | 玉名郡菊水町江田字清原 | 6C | 前方後円墳：53m | ○ | | | 人物頭部（女性） | |
| 10 | 江田船山古墳 | 玉名郡菊水町江田字清原 | 5C後 | 前方後円墳：61m | ○ | ○ | | 家？ | |
| 11 | 京塚古墳 | 玉名郡菊水町江田字清原 | 5C中 | 円墳：22m | ○ | | | 馬の脚部？・人物胴一部 | |
| 12 | 椿山古墳 | 玉名郡菊水町瀬川字白石 | | 前方後円墳？ | | | | 不明 | |
| 13 | 塚の神古墳 | 玉名郡天水町部田見字恵丸 | | 円墳 | | | | 不明 | |
| 14 | 経塚古墳 | 玉名郡天水町部田見字経塚 | | 円墳 | | | | | |
| 15 | 大塚古墳 | 玉名郡天水町立花字大塚 | | 円墳 | ○ | | | | |
| 16 | 臼塚古墳 | 山鹿市石字臼塚 | 6C前 | 円墳：28.6m | ○ | ○ | | 人物 | 武装石人1 |
| 17 | 金屋塚古墳 | 山鹿市石字金屋塚 | | 円墳：30m | ○ | | | | |
| 18 | 双子塚古墳 | 鹿本郡鹿央町岩原字塚原 | 5C | 前方後円墳：107m | | | | | |
| 19 | 高熊1号墳 | 鹿本郡植木町古閑字天神平 | 6C | 前方後円墳：61.5m | | ○ | | 不明 | |
| 20 | 大塚山古墳 | 鹿本郡植木町正清字登立 | | 不明 | | | | 城 | |
| 21 | フタツカサン古墳 | 菊池市木柑子字下向原 | 6C後 | 前方後円墳：41.8m | | | | 人物？ | 石人1（現地保存） |
| 22 | 蛇塚古墳 | 菊池郡七城町亀尾蛇塚 | | 前方後円墳 | | | | 人物？・盾？ | |
| 23 | 長目塚古墳 | 阿蘇郡一の宮町中通字上鞍掛 | 5C | 前方後円墳：111.5m | | | ○ | | |
| 24 | 上鞍掛塚古墳 | 阿蘇郡一の宮町中通字上鞍掛 | 5C | 前方後円墳：65.5m | ○ | | | | |
| 25 | 富ノ尾古墳 | 熊本市池田3丁目富ノ尾 | 6C前 | 前方後円墳？：30m | | | | | 東墳出土 石人1（他に2基の古墳有り） |
| 26 | 井寺古墳 | 上益城郡嘉島町井寺字富尾敷 | 6C前 | 円墳：20m | | | | | |
| 27 | 琵琶塚古墳 | 下益城郡城南町塚原字丸山 | | 前方後円墳 | | | | 不明 | |
| 28 | 松橋大塚古墳 | 下益城郡松橋町松橋字大野 | | 前方後円墳：79m | ○ | ○ | | | |
| 29 | 前田遺跡A地点 | 下益城郡松橋町松橋字前田 | 不明 | 不明 | ○ | ○ | | | |
| 30 | 山下古墳 | 下益城郡松橋町古保山 | 6C中 | 円墳 | | | | | |

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 時期 | 遺構概要 | 円筒 | 朝顔 | 壺形 | 形象埴輪 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 31 | スリバチ山古墳 | 宇土市神台町字木谷 | 4C後 | 前方後円墳：96m | | | ○ | | |
| 32 | 迫ノ上古墳 | 宇土市神台町字迫ノ上 | 4C中 | 前方後円墳：54m | | | ？ | | |
| 33 | 神台古墳 | 宇土市神台町字迫の前 | | 円墳 | ○ | | | | |
| 34 | 轟貝塚 | 宇土市宮庄の町旭崎 | | 本明 | ○ | | | | 消失古墳？ |
| 35 | 西岡台遺跡 | 宇土市棒島町字千畳敷 | | 本明 | ○ | | | | |
| 36 | 向野田古墳 | 宇土市松山町字合野田 | 4C後 | 前方後円墳：88.5m | | ○ | | | 舟形石棺 |
| 37 | 石ノ瀬遺跡 | 宇土市右小路町 | 5C前 | 本明 | ○ | | | | 舟形石棺 |
| 38 | 国越古墳 | 宇土郡不知火町長崎国越 | 6C前 | 前方後円墳：62.5m | ○ | ○ | | 人物・馬 | |
| 39 | 井天山古墳 | 宇土郡不知火町長崎井天山 | 4C後 | 前方後円墳：53.5m | | | ○ | | |
| 40 | 道免古墳 | 宇土郡不知火町長崎道免 | | 円墳 | ○ | | | 人物 | |
| 41 | 鴨庭東古墳 | 宇土郡不知火町長崎域の越 | 5C後 | 墳丘消滅により不明 | ○ | ○ | | | 家形石棺（直弧文） |
| 42 | 塚原平古墳 | 宇土郡不知火町高良字塚原平 | 6C後 | 円墳 | ○ | | | | |
| 43 | 八代大塚古墳 | 八代市上片町字下野森 | 6C前 | 前方後円墳：55.8m | ○ | ○ | | 人物・武人<br>人物頭部（女性） | |
| 44 | 長塚古墳 | 八代市上片町字下野森 | | 前方後円墳 | ○ | | | | |
| 45 | 鳩山古墳 | 八代市日奈久馬越町馬出 | | 本明 | ○ | | | | |
| 46 | 竹原古墳 | 八代市竹原町竹原神社境内 | | 円墳 | ○ | | | | |
| 47 | 高塚東原遺跡 | 八代郡氷北町高塚字東原 | | 方形周溝墓 | | | ○ | | |
| 48 | 東新城古墳 | 八代郡氷北町高塚東新城 | | 前方後円墳：65m | ○ | | | | |
| 49 | 姫の城古墳 | 八代郡氷北町大野字北川 | | 前方後円墳：85m | ○ | ○ | | | 陵5・類5<br>蓋1（笠1柄1） |
| 50 | 中の城古墳 | 八代郡氷北町野津字上北山王 | | 前方後円墳：98m | ○ | | | 盾持埴輪1 | |
| 51 | 鏡の城古墳 | 八代郡氷北町野津字上北山王 | | 前方後円墳：62m | ○ | | | 人物頭部？<br>馬形埴輪の脚？ | |
| 52 | 大王山1号墳 | 八代郡宮原町早尾 | | 前方後円墳 | ○ | | | | 舟形石棺 |
| 53 | 園の迫古墳 | 八代郡宮原町立神字園の迫 | | 円墳：26m | ○ | | | | |
| 54 | 岩立てC古墳 | 八代郡宮原町立神字岩立 | | 円墳：19m | ○ | | | | |
| 55 | 笛園1号墳 | 八代郡宮原町立神字笛園 | | 円墳 | ○ | | | | |
| 56 | 野寺遺跡 | 八代郡宮原町平原字野寺 | | 本明 | ○ | | | | |
| 57 | 有佐大塚古墳 | 八代郡氷町下有佐字大塚 | | 前方後円墳 | ○ | | | | |
| 58 | カミハナ1号墳 | 天草郡苓北町合津永迫 | | 円墳：13m | ○ | | | | |
| 59 | チブサン古墳 | 山鹿市城字西福寺 | 6C前 | 前方後円墳：44m | ○ | ○ | | | 石人1<br>（東京国立博物館蔵） |
| | | | | | | | | | |

# 熊本県石製品出土地一覧表

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 時期 | 遺構概要 | 石製品の種類 | 形象埴輪 | 装飾古墳 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 三ノ宮古墳 | 宮尾市宇用区下井出 | 6C初 | 前方後円墳：37m | 武装石人1 | | ○ | |
| 2 | 不明 | 玉名郡菊水町大字江田字清原 | 不明 | 不明 | 武装石人1・家形石製品1<br>腰掛形石製品（未確認）1 | | | 京塚古墳に伴うものか？ |
| 3 | 臼塚古墳 | 山鹿市大字石字臼塚 | 6C前 | 円墳・横穴式石室 | 武装石人1（鳩を負う） | ○ | ○ | |
| 4 | チブサン古墳 | 山鹿市大字城字西福寺 | 6C前 | 前方後円墳・横穴式石室 | 石人1 | | ○ | |
| 5 | フタツカサン古墳 | 菊池市木柑子 | 不明 | 前方後円墳・横穴式石室 | 石人1 | ○ | | |
| 6 | 富ノ尾石人 | 熊本市池田3丁目富ノ尾 | 6C前 | 不明 | 石人1<br>（富ノ尾古墳より移転か） | | ○ | |
| 7 | 今城大塚古墳 | 上益城郡嘉島町流川 | 6C後 | 前方後円墳・横穴式石室 | 石蓋1 | | ○ | |
| 8 | 石之室古墳 | 下益城郡城南町塚原 | 5C末<br>6C初 | 浮遊横口式家形石棺 | 蓋の蛸1 | | | |
| 9 | 北原1号墳 | 下益城郡城南町塚原 | 6C中 | 不明横口式家形石棺 | 棺形石製品1 | | | |
| 10 | 姫ノ城古墳 | 八代郡竜北町大野 | 不明 | 前方後円墳 | 鴟・翼・蓋（笠1・蛸1）1 | | | |
| 11 | 天堤古墳 | 八代郡竜北町大野 | 不明 | 前方後円墳 | 蓋（笠1・蛸1）1 | | | |
| 12 | 装束尾高塚古墳 | 菊池市装束尾高塚 | 6C後 | 円墳・横穴式石室 | 鴟1 | | ○ | |
| 13 | 不明 | 菊池郡七城町小野島 | 不明 | 不明 | 船形石製品1？ | | | |
| 14 | 八代大塚古墳 | 八代市上片町下森 | 6C前 | 前方後円墳 | 不明<br>（表面採集の滑石形石製品と類似） | ○ | | |

# 展示協力者・機関

本企画展の開催にあたり、貴重な資料の出品並びに写真資料を提供いただきました所蔵者・管理者の方々、またご指導、助言をいただきました方々は次のとおりです。お名前を記して感謝の意を表します。

**協力機関**

岩戸山歴史資料館、宇土市教育委員会、菊合町教育委員会、九州大学考古学研究室、熊本県教育委員会、熊本市立博物館、熊本大学考古学研究室、群馬県立歴史博物館、古代吉備文化財センター、城南町歴史民俗資料館、津山弥生の里文化財センター、鳥栖市教育委員会、那珂川町教育委員会、八代市教育委員会、八代市立博物館未来の森ミュージアム、八女市教育委員会、竜北町教育委員会　（敬称略・五十音順）

**協力者**

赤崎 敏男　石原　治　岩村 昭二　植野 治代
江原 浩司　小郷 利幸　木村 元浩　清田 純一
切明 友子　甲元 眞之　佐藤 昭圓　澤田 康夫
澤田 宗順　茂　和敏　島津 義昭　勢田 廣行
高木 恭二　高木 正文　富田 紘一　平井 泰男
平野 進一　福原　透　福本 信子　藤瀬 禎博
松本 健郎　（敬称略・五十音順）

# 参考文献

本書の作成にあたり、下記の一般図書・研究論文・発掘調査報告書・展示図録等を参考・引用させていただきました。ここに感謝の意を表します。


**一般図書**（発行年順）

黒板　勝美編　1951年　『新訂増補國史大系〔普及版〕日本書紀　前篇』吉川弘文館
井上　辰雄著　1970年　『火の国』学生社
水野　正好著　1971年　「埴輪芸能論」『古代の日本』2　角川書店
和田　　萃著　1973年　「殯の基礎的考察」『論集終末期古墳』塙書房
森　　浩一編　1975年　『墓地』日本古代文化の探究社会思想社
増田　逸一著　1976年　「埴輪の古代史」新潮社
亀井　正道著　1977年　「祈りの継承」『土偶・埴輪』日本陶磁全集3　中央公論社
近藤　義郎著　1984年　「前方後円墳の時代」岩波書店
岩崎　卓也著　1984年　「古墳時代の知識」考古学シリーズ39　東京美術
白石太一郎著　1985年　「古墳の知識Ⅰ」考古学シリーズ39　東京美術
石野　博信編　1985年　「形象埴輪の出土状況」第17回埋蔵文化財研究会資料
森　　浩一編　1987年　「シンポジュウム鏡の考古学」「同志社大学文学部考古学資料1」同志社大
村井嶺雄他著　1988年　「古墳の知識Ⅱ」考古学シリーズ39　東京美術
白石太一郎著　1989年　「古墳の造られた時代」日本のあけぼの5毎日新聞社
都出比呂志編　1989年　「古代史復原古墳時代の王と民衆」講談社
白石太一郎編　1990年　「古代史復原古墳時代の工芸」講談社
辰巳　和弘著　1992年　「埴輪と絵画の古代学」白水社
若松　良一著　1992年　「再生の祈りと人物埴輪-埴輪群像は蘇を再現している―」
　　「東あじあの古代文化」72号　大和書房
石野　博信著　1992年　「古墳Ⅲ埴輪」「古墳時代の研究」9　雄山閣
近藤　義郎編　1992年　「青龍の考古学的研究」（上）山陽新聞社

**発掘調査報告書・県市町村誌**

乙益　重隆編　1965年　「第二章史前」『熊本縣誌』熊本県
山磨庚平・橋本整司・奥和之　1978年　「中山遺跡」落合町教育委員会
福嶋慶純・景山俊邦　1981年　「長瀬高浜遺跡Ⅳ」鳥取県教育文化財団
高木　正文編　1984年　「熊本県装飾古墳総合調査報告書」熊本県教育委員会
藤瀬　禎博著　1984年　「岡寺前方後円墳」鳥取市教育委員会
吉永明・澤田宗順　1987年　「八代大塚古墳」八代大塚古墳調査団・八代市教育委員会
澤田　康夫他　　1990年　「那珂川町の文化財」那珂川町教育委員会
小田富士雄・武末純一・伊崎利秋・赤崎敏男　1992年　「八女市史」上巻

**展示図録他**

根岸競馬記念公苑　1981年　特別展「日本古代の馬文化展」根岸競馬記念公苑　馬の博物館・学芸部編
　　1987年　「北部九州の装飾古墳とはにわ展」飯塚市歴史資料館
文珠　省三　1987年　第108回特別展「動物の考古学」大阪市立博物館
高橋美久二　1991年　特別展「京都府のはにわ」京都府立山城郷土資料館
千賀　　久　1991年　特別展「はにわの動物園Ⅱ」奈良県立橿原考古学研究所付属博物館
山下　隆次　1992年　開館記念特別展「海を渡ってきた武人」香芝市二上山博物館
平野　進一　1993年　第46回企画展「はにわ-秘められた古代の祭祀」群馬県立博物館
白石太一郎　1993年　「装飾古墳の世界」国立歴史民俗博物館

# 出品目録

| No. | 名称 | 遺跡名 | 出土地 | 所蔵・管理者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 特殊器台 | 中山遺跡 | 落合町中山 | 岡山県落合町教育委員会 |
| 2 | 特殊壺 | 中山遺跡 | 落合町中山 | 岡山県落合町教育委員会 |
| 3 | 円筒埴輪 | チブサン古墳 | 山鹿市城西福寺 | 熊本県教育委員会 |
| 4 | 朝顔形埴輪 | チブサン古墳 | 山鹿市城西福寺 | 熊本県教育委員会 |
| 5 | 家形埴輪 | カクチガ浦古墳 | 那珂川町松本カクチガ浦 | 那珂川町教育委員会 |
| 6 | 横瓶形埴輪 | 貝徳寺古墳 | 那珂川町今光宗石 | 那珂川町教育委員会 |
| 7 | 馬に乗る貴人 | 立山山13号墳 | 八女市本立山 | 八女市教育委員会 |
| 8 | 首飾りをつけ、みずらにゆった人物 | 立山山8号墳 | 八女市本立山 | 八女市教育委員会 |
| 9 | 袴をつけた脚 | 立山山13号墳 | 八女市本立山 | 八女市教育委員会 |
| 10 | 襷をした人物 | 立山山8号墳 | 八女市本立山 | 八女市教育委員会 |
| 11 | いれずみをした顔 | 立山山13号墳 | 八女市本立山 | 八女市教育委員会 |
| 12 | 耳環をつけた人物 | 岩戸山古墳 | 八女市本立山 | 九州大学文学部考古学研究室 |
| 13 | 垂飾付耳飾 | 立山山8号墳 | 八女市吉田甚三谷 | 八女市教育委員会 |
| 14 | 壺をもつ婦人 | 立山山13号墳 | 八女市本立山 | 八女市教育委員会 |
| 15 | 巫女 | 岡寺古墳 | 鳥栖市田代本町太田 | 鳥栖市教育委員会 |
| 16 | 武人 | 岡寺古墳 | 鳥栖市田代本町太田 | 鳥栖市教育委員会 |
| 17 | 短甲 | 繁根木古墳 | 玉名市繁根木 | **熊本市立博物館** |
| 18 | 大刀 | 塚坊主古墳 | 菊水町瀬川清水原 | 熊本県教育委員会 |
| 19 | 鉄製武器類 | 国越古墳 | 不知火町長崎国越 | 熊本県教育委員会 |
| 20 | 馬形埴輪 | 岡寺古墳 | 鳥栖市田代本町太田 | 鳥栖市教育委員会 |
| 21 | 鶏形埴輪 | 立山山13号墳 | **八女市本立山** | 九州大学文学部考古学研究室 |
| 22 | 猿形埴輪 | 立山山8号墳 | 八女市本立山 | 八女市教育委員会 |
| 23 | 人物埴輪頭部 | 虚空蔵塚古墳 | 菊水町江田 | 熊本県教育委員会 |
| 24 | 人物埴輪頭部 | 八代大塚古墳 | 八代市上片町下野森 | 八代市教育委員会 |
| 25 | 凝灰岩製さしば | 姫ノ城古墳 | 竜北町野津姫ノ城 | 竜北町教育委員会 |

# あとがき

さて、短い間ですが、ご覧いただいてどのような感想を抱かれたでしょうか。黙して語らないこれらの遺物と向かい合って会話する、それが考古学なのです。

今回の企画展のタイトルは「はにわの考古学」としました。これには、ご覧いただいた皆様に、展示してある資料一つ一つと会話を交わしていただきたいとの想いが込められているのです。

考古学とは、けっして難しい学問ではありません。まず目の前のものを、興味をもって観察することから始めましょう。すると、今まで見えなかったものがきっと見えてくるはずです。この展示を通して「考古学」がより身近なものになることを願っています。

1994年11月３日

熊本県立装飾古墳館図録

●●●

平成6年度後期企画展

# 「はにわの考古学」

発　行　日：1994年11月3日
編集・発行：熊本県立装飾古墳館
〒861-05 熊本県鹿本郡鹿央町大字岩原3085
TEL. 0968-36-2151
FAX. 0968-36-2120

印　刷　所：株式会社 城野印刷所
〒861-22 熊本県上益城郡益城町広崎1630-1
産業団地内

熊本県立

装飾古墳館

この電子書籍は、熊本県立装飾古墳館 企画展図録 第 5 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、全国の歴史博物館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：はにわの考古学
発行：熊本県立装飾古墳館
〒861-0561　熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085 番地
電話：0968-36-2151
URL：http://kofunkan.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦 2018 年 6 月 1 日